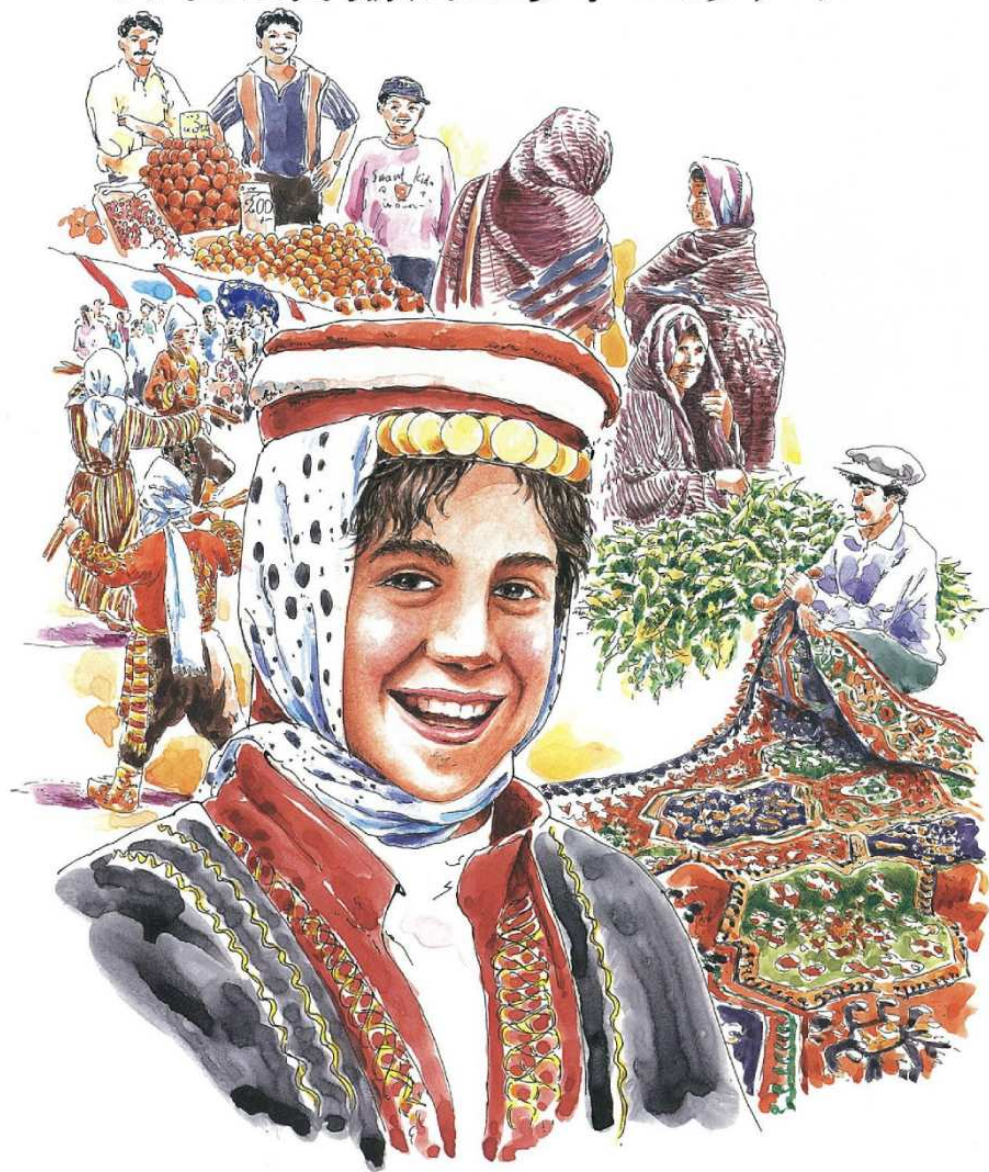


SOWER

ソア=種まく人
No.18
May. 2001
財団法人
日本聖書協会

特集 日本聖書協会125年のあゆみ



待望の新刊

新共同訳 小型旧約聖書

2001年
4月23日
発売

★旧約聖書から読みたい方へ。

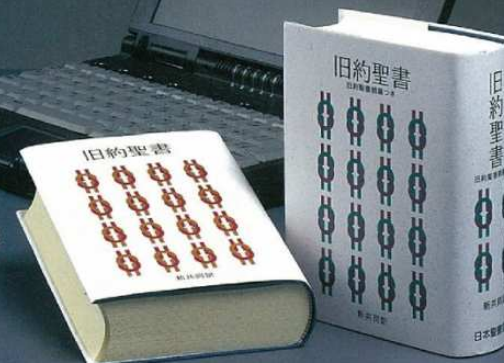
★新約聖書をお持ちの方へ。

書名
小型旧約聖書
目録番号
NI 144
本体価格
2,200円

訳名 新共同訳

サイズ A6判 (文庫本大)

装丁 ビニールクロス装

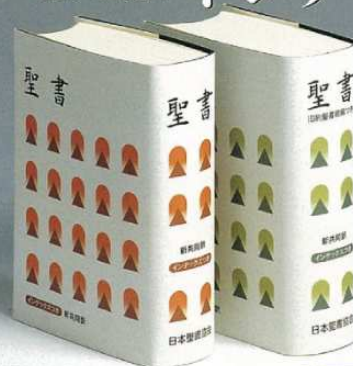


書名
小型旧約聖書
旧約聖書続編つき
目録番号
NI 144DC
本体価格
2,700円

読みたいところが、すぐひらく!!

新共同訳 インデックスつき聖書

好評
発売中
!



書名 新共同訳 インデックスつき聖書
目録番号 NI 54 IX
本体価格 4,000円

サイズ B6 判
装丁 ビニールクロス装

書名 新共同訳 インデックスつき聖書 旧約聖書 続編つき
目録番号 NI 54 DCIX
本体価格 4,600円

サイズ B6 判
装丁 ビニールクロス装

●ご注文は近所のキリスト教専門書店、または全国の書店へ
(郵便当協会にご注文頂く場合、別途送料がかかります)
●カタログ請求、お問い合わせは右記まで

財団法人
日本聖書協会
JAPAN BIBLE SOCIETY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3567-1987 (ダイヤルイン)
FAX 03-3567-4436
ホームページ <http://www.bible.or.jp>

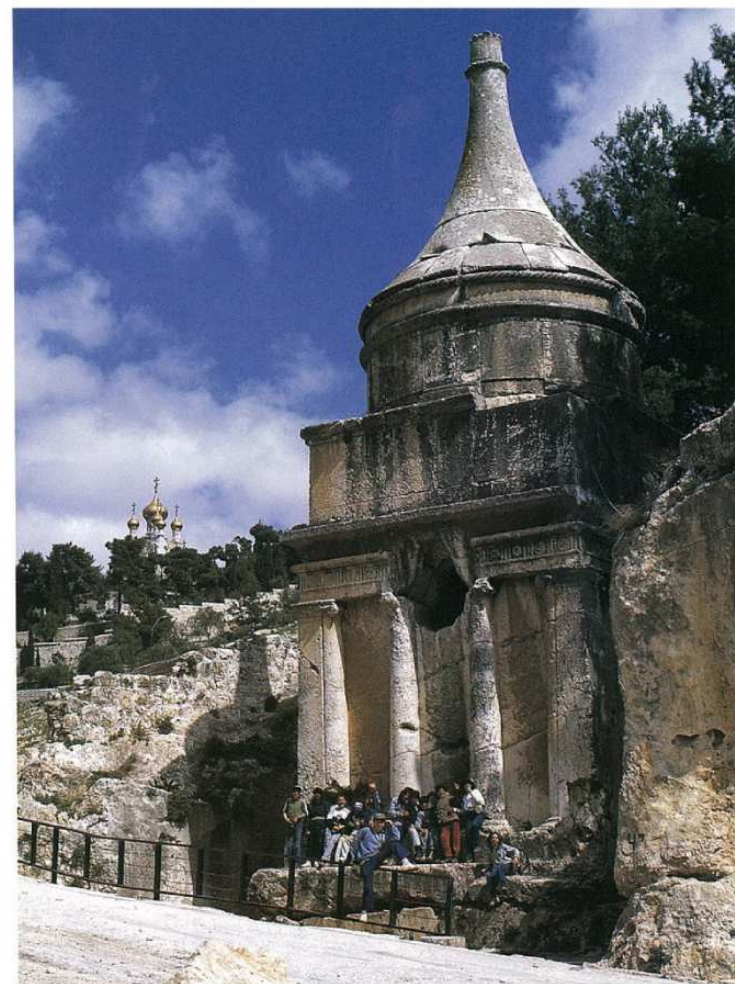
SOWER
ソア No.18

2001年5月1日発行
[今号より5月・12月の
年2回発行]

発行・財団法人 日本聖書協会
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3567-1988 振替 00160-2-18410

ホームページ
<http://www.bible.or.jp>

この雑誌は
エコマーク認定の
再生紙を
使用しています



アブサロムの碑

ケデロンの谷の南に一群の古代墓が並んでいます。その一番左手すなわちオリブ山側に円錐型の帽子をかぶった不思議な形をした石造碑が建っています。これが「アブサロムの碑」と呼ばれているものです。この墓が実際に建造されたのは紀元一世紀のはじめのころといわれています。イエス様この前を通られたのでしょうか。しかしアブサロムの墓とされるようになったのは一六世紀ごろのことだそうです。

「アブサロムは生前、王の谷に自分のための石柱を建てていた。跡継ぎの息子がなく、名が絶えると思ったからで、この石柱に自分の名を付けていた。今日もアブサロムの碑と呼ばれている」と、サムエル記に書かれていることに由来するようです。

現在アブサロムは親への反逆の象徴とされ、子供を連れた親がこの碑に石を投げ「わがままな子供はこうされるのだよ」と言い聞かせるそうです。

参照 サムエル記下 一八章 一八

巻頭聖句

わたしは今日、(…中略…)
生と死、祝福と呪いをあなたの前におく。
あなたは命を選びなさい。

(申命記 30章 19, 20節)

私たちは分れ道に立っている、と聖書は告げます。

一方の道は命と祝福、他方の道は死と呪いの道です。

一体どこの誰が、命と祝福を捨てて、死と呪いの道を選ぶでしょうか。

しかし、この選択はそれほど単純ではありません。人類はもっと快適な生活をしたいと、努力を重ねてきました。

もっと豊かに、もっと便利に、もっと大きく、もっと多く、もっと、もっと…。

その結果、私たちは本当に幸せになったのでしょうか。子どもたちが希望に輝き、

働き盛りの人が生き生きと、高齢者が安らかに生きているのでしょうか。

聖書の告げる命と祝福の道は、自らを低くして、人に仕え、人のために命まで捨て給うた

主イエスに従って生きることです。

その意味で、20世紀の私たちの文明は、実は死と呪いの道を選ぶことでした。

そのような私たちに神はなおも切々と語りかけられます。

「私はだれの死をも喜ばない。立ち帰って生きよ」(エゼキエル書 18章 32節)

鈴木 伶子

日本キリスト教協議会総会議長

CONTENTS

Sower
No. 18
2001

2 日本聖書協会
特集
125年のあゆみ

6 インタビュー
神戸聖書展の可能性
鍋谷 堯爾

9 ホームページ最新情報
Eメール 渡部 信

10 今日に語りかけるエレミヤ
小山 晃佑

12 エッセイ 市村 和夫
「わたしの目には、あなたは高価で尊い」
インターナショナルVIPクラブの始まりと発展

14 人物と聖書 荻野 吟子と聖書
鈴木 範久

16 読者の声より

17 聖書図書館蔵書シリーズ ⑧
「デエスター・ピーティ・パピルス」



表紙の言葉

エーゲ海に面したトルコ共和国はアジアの一番西にあります。4月23日は子供の日のおまつりで、世界各地の子供を招待する盛大な催しが行われます。手芸ではトルコ絨毯やキリムで有名です。

(月本佳代美)

特集

日本聖書協会 125年のあゆみ

新たな時代の聖書普及を目指して

日本での聖書普及活動の扉が開かれたのは、
1875(明治8)年のことでした。

そして昨年、日本聖書協会は125年を迎え、
21世紀という新千年期に向け、
新たな歩みをスタートさせました。

今回はその125年の足跡を年表で
振り返ると共に、昨秋10月に挙行されました
聖書普及活動125年記念式典の様子を
ご報告いたします。



1933年 (昭和8年) 1917年 (大正6年) 1904年 (明治37年) 1894年 (明治27年) 1887年 (明治20年) 1881年 (明治14年) 1880年 (明治13年) 1876年 (明治9年) 1875年 (明治8年)

聖書普及活動略年史

スコットランド聖書協会(NBSS)代表・リリーが
横浜に滞在。北英国聖書協会を設立。

横浜に米国聖書協会(ABS)が米国聖書協会、英国
聖書協会(BFBS)が英国聖書協会を設立。東京に
聖書事業委員会が設けられた。

一八七二年に横浜居留地のヘボン宅で選出された翻訳
委員社中により進められていた「新約全書」の翻訳が
完成。米国、英国、北英国の各聖書協会の協力により、
一八七六年から全十七冊の分冊で順次刊行。

翻訳委員社中による「新約全書」の英和対照版が完成。

一八七六年に東京聖書翻訳委員会と翻訳委員社中が合
同で組織した聖書出版委員会による「旧約全
書」の翻訳が完了。一八八二年から発行されていた旧
約分冊全二十八巻が完了したことにより、邦訳による
初の「旧約全書」(元訳)が完成。

横浜・米国聖書協会が、日本初の点字聖書「ヨハネ伝」
を刊行。これ以降、一九一四年までに新約全十一冊の
点字聖書が完成。

日本国内の聖書普及活動が名古屋を境に東西に二分さ
れることとなり、東は米国聖書協会が、西はスコット
ランドと英国聖書協会が担当。これに伴い、西を担当
する事務所は横浜から神戸へ移転。

福音同盟会、聖書常設委員会、米、英、北英国の聖書
協会が一九〇九年に選出した委員会により、大正改訳
「新約聖書」が完成。

十二月、東京・銀座に建てられた聖書館の開館式が挙
行された。同館はその後の戦災も免れ、今日に至る。



銀座に完成当時の
聖書館



1894年頃の
横浜居留地
本町通りにあった
聖書館(手前左)



聖書翻訳出版委員会訳
「旧約全書」(元訳)



翻訳委員社中訳
「新約聖書」

ここでは記念式典の進行の様子に併せ、日本聖書協会の大宮渾理
事長と渡部信総主事、そして、聖書協会世界連盟総主事のファーガ
ス・マクドナルド氏のお話(要旨)をご紹介します。

讃美歌の歌声と共に 肅々と始められた記念式典

二〇〇〇年十月三十一日、東京カテドラル聖マリア大聖堂におい
て、聖書普及活動一二五年記念式典が行われました。当日の空は見
事な秋晴れとなり、すがすがしい空気に包まれた大聖堂には、海外
来賓一四名を含む五二〇名もの方々が集いました。

午前十時三十分、バイブオルガンの音が讃美歌六七番「よろずの
もの」に変わったのを合図に、記念式典は始まりました。讃美歌斉
唱の後、朝野洋理事の聖書朗読、河野裕道理事のお祈りと、式はつ
つがなく進み、大宮渾理事長の式辞へと続きます。

●神の言葉をすべての人に……大宮 渾

聖書協会の活動は、一般市民の自発的な参加と支援によって担わ
れるものです。聖書協会の活動が始められた当初の経済状況や交通
事情は、英米といえども決して潤沢安易ではありませんでした。そ
れゆえ、この活動は、神の言葉を地の果ての一人一人まで届けなけ
ればならないという、燃えるような熱情によって可能になったこと
を深く心に留めたいものであります。

英米の三聖書協会は、緊密な一致のもとにその働きを進め、格調
の高い明治訳文語聖書、大正改訳新約聖書を刊行し、教会の基礎、
信徒の心の糧を提供しただけでなく、日本の思想界、文学界にも大
きな貢献をしてきました。また、日本聖書協会となつてからも、口
語訳聖書や、プロテスタントとカトリックの協力による新共同訳聖
書を刊行し、神の言葉を日常語に聞くことに努めてきました。

一九四五年には、世界各国の聖書協会が合同して、聖書協会世界
連盟(UBS)を結成、世界教会協議会とも協力して、全世界への

聖書頒布を企画推進することになり、日本聖書協会も自立から世界
的連帯と協力の一担い手としての使命を果たしてきました。

このような日本聖書協会一二五年の歩みは、教会および信徒有志
の厚い理解と祈りと支援によってのみ可能でありました。聖書協会
はまた教会の宣教の先触れとして仕えることを第一の使命として、
さらには広く社会の中に心の糧としての聖書を届けようとして心掛けて
参りました。ご指導ご支援くださった方々に、ここに厚く御礼申し
上げるとともに、二一世紀に向かって、ますます励んで使命を果た
すことを決意するものであります。

固い握手に満場の拍手 感謝楯の贈呈

続いて行われたのは、感謝楯の贈呈です。大聖堂の大きな十字架
の前で、聖書協会世界連盟のファーガス・マクドナルド氏から大宮
渾理事長へ感謝楯が贈られ、両氏が笑顔で固い握手を交わす(右ペ
ージ上写真)と、静かに見守っていた会場からは惜しみない拍手が起
こりました。その余韻が冷めやらぬ中で、渡部信総主事は聖書普及
の歴史を振り返り、これからの変わることに思いを語りました。

●聖書普及活動一二五年記念式典によせて……渡部 信

「全世界に福音を宣べ伝えよ」とのイエス様の言葉が、聖書の
み言葉として伝えられて二〇〇〇年を迎えようとしている今日、こ
れは不思議な神さまの伝達方法であると言わざるを得ません。一字
も違えず、当時の聖書のみ言葉がほぼ完全な形で継承されてきた陰
に、み言葉が文書によって記録され、保存されてきた事実がありま
す。その聖書のみ言葉を印刷技術によってすべての人々が自由に堪
能できるようになったことは、最近のタイム誌にも、過去の千年期
の中でも一番最大の画期的出来事であったと記されておりました。
確かに、聖書のみ言葉が世界の歴史を変え、人類の道への歩みに動
機を与え、人々に勇気を与えて今日に至ってきました。

一八〇四年に、最初の聖書協会が設立されてから約二〇〇年が経



2000年 (平成12年)	1997年 (平成9年)	1995年 (平成7年)	1994年 (平成6年)	1988年 (昭和63年)	1987年 (昭和62年)	1978年 (昭和53年)	1970年 (昭和45年)	1968年 (昭和43年)	1956年 (昭和31年)	1955年 (昭和30年)	1947年 (昭和22年)	1946年 (昭和21年)	1937年 (昭和12年)
------------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

一月、日本聖書協会（JBS）が組織された。
終戦後、米国内で制作された日本語聖書「旧約聖書」と「新約聖書」計一七二万冊、および分冊福音書八万冊（合計二九二万冊）が、日本に贈呈された。日本聖書協会はその後一九四九年から同一年まで、米本に二〇〇万冊の聖書を贈る運動を継続して実施。なお、同運動のための募金者による約三万八〇〇〇の署名簿は「グッドウィル・ブック」として、日本に届けられた。

九月、聖書協会世界連盟（UBS）第一回総会がオランダで開催。

日本聖書協会が財団法人として認可された。

一九五〇年に日本聖書協会が設置した改訳委員会による「口語聖書」が完成。旧約はキッテル改訂三版、新約はネストレ校訂二版を底本とし、最新の聖書学の成果を考慮の上、新仮名づかい、漢字制限による平易簡明の文体を旨とした訳業を遂行。（新約は一九五四年刊行）

口語訳の「点字聖書」（旧約二四巻、新約八巻）全巻完成。なお、新約は「口語聖書」の訳訳が完成した一九五四年に既刊。

日本聖書協会が米国聖書協会および英国聖書協会から財政的に自立し「受ける協会から与える協会」へ。

六〇年代から始まった教会一致（エキメニスム）運動の高まりを受け、日本においても聖書協会世界連盟（UBS）作成の「聖書新訳におけるプロテスタントとカトリックの共同作業のための標準原則」に基づいた、カトリック教会とプロテスタント両教派による共同訳聖書発行委員会が発足。この後、超教派の専門委員会による協力体制を組織し、一九七五年より訳訳作業に着手。なお、旧約はドイツ聖書協会の「ピフリア・ヘプライ

「新約聖書 共同訳」完成。直後に、翻訳方針が見直され「教会の興で用いられる聖書」を第一義に、新約の改訳作業と旧約および旧約聖書続編の訳訳作業を継続して行（つづ）なされた。

「聖書 新共同訳」完成。旧約聖書続編付きおよび同続編なしの二種類の聖書が九月五日に発行。九月十五日に東京・日比谷の東京會館で奉献式が行われた。以後、新共同訳の聖書はこの二種類の出版を続ける。

一九八六年から日本でスタートしていた、中国・愛徳印刷版の聖書印刷のための募金が目標額八八六万三六八〇円（一六二万五〇〇〇ドル／募金開始時）で一億円を達成。UBSへ送金された。

一九九〇年からスタートしていた、東欧・旧ソ連地域への聖書贈呈のための募金が目標額九〇〇万円（一九〇八二万八千七百円）を達成。UBSへ送金された。これは全世界での募金目標額五八〇〇万ドルの二％にあたる。

「聖書 新共同訳」の旧新約および新約聖書の総頒布冊数が二〇〇万冊を突破。

国際聖書製作（GSP）計画を開始し、世界への聖書贈呈運動を本格化。

日本での聖書普及活動開始から二二五年を迎えた。



熱心に聖書を求めるコンゴ民主共和国の人々



新共同訳「点字聖書」



聖書 新共同訳 奉献式



パイプ・バンで口語聖書の全国頒布



「口語聖書」



Good Will Book

み言葉をより多くの人々へ この切なる思いを今また一つに

とうとうとしております。そして、この聖書普及活動の流れの中で、今から一二五年前に、最初の北英、英、米の聖書協会が日本に訪れ、その結果、文語訳聖書、口語訳聖書、新共同訳聖書を発行するに至りました。こうして、記念すべき二〇〇〇年に聖書普及活動一二五周年記念式典を、主によって導かれた皆様と共に挙行できますことを心から神さまに感謝したいと思います。

新しい千年期を迎え、世界の歴史は、そして、日本の将来は、今後どのように導かれていくのでしょうか。皆様方におかれましては、この聖書普及活動を今まで以上に深く覚えてくださり、ますますご支援とご協力をいただければ、真に幸いに存じるところです。

「今は恵みの時」。この佳き日に、神様の祝福が豊かに一人一人にありますように、お祈り申し上げます。

● 祝辞……………ファールガス・マクドナルド

世界の聖書協会の家族は、今日、皆様と「主は確かに、一二五年前にわたって、日本聖書協会を助けられた」と喜んでおります。そして今日、皆様は「主は確かに日本聖書協会を助けられた。」と、預言者サムエルのようにエベネザーすなわち「助けの岩」を建て、諸教会に、そして日本の国に宣言しているのです。

聖書は「助けの岩」のみならず、もう一つの象徴「命の木」についても語っています。それは聖書の初め、そして最後にも記されています。その木は、最初に、そして最後に神が与えられ約束された

永遠の命を象徴しています。

創世記と黙示録における命の木は、ペテロの手紙二第二章二四節にあるキリストが私たちの罪を背負われた木に関連しています。また、天国における命の木は、詩編九二編にあるように、神の子どもたちが神の家に根づき、実を实らせる椰子や杉の木に象徴されています。

今日、神の恵みの奇跡により、神の言葉が翻訳され、読まれることを通じて、この命の木が、社会に、そして人々の心の中に植えられるというのすばらしいことです。なぜなら、神のみ言葉は命の木の種だからです。その種を植えることは、人々の人生、家族、そして国々を変えることのできる神の大きな力を解き放つことになるのです。

世界の聖書協会の家族の一員として、私は、日本聖書協会、そして、ご支援者の皆様に「種を植えてください。」と言いたいと思います。

まず、この種を植えるながら、日本の、アジアの、そして世界の未来に投資してください。この種はほかの何にも勝り、日本を変えることができます。献身的に種を植えてください。そして命の木が根づくことを期待してください。それが実を結び、二一世紀に向かって反映をもたらすことを……

厳かに進められた記念式典はこの後、賛美と頌栄、祝祷へと続き、感謝と祝福に満ちた中で幕を閉じました。

（編集部）



大勢の参加者で熱気溢れる式典会場

神戸聖書展


 なべたに ぎょうじ
神戸国際大学教授

の可能性

阪神・淡路大震災から6年目を迎えた神戸で、「2001年神戸聖書展」が開かれました。今回はこの神戸聖書展の実行委員長として、中心的な働きをされた、鍋谷堯爾氏にお話を伺いました。

鍋谷堯爾

なべたに ぎょうじ
神戸国際大学教授

「二〇〇一年神戸聖書展」(五月九日～十四日、神戸市三宮・そう神戸店)は、バイブル・キャンペーンの中では「東京大聖書展」に続く第二六回目の開催であり、特に関西地域のキリスト教界の教団・教派・教会において注目される催しとなりました。

「二一世紀の幕開けとなる今年、神戸で聖書展を開催しようと考えられたきっかけは、どのあたりにあるのでしょうか？」

阪神・淡路大震災から四年ほどして、二十世紀の終わり、そして二一世紀の始まりに、希望の持てる何かを打ち出したいと考えまし

た。震災の後遺症をどう癒していくかというだけでなく、もっと積極的に、教会が一丸となり、また市民も一緒にやって行かなくてはならない、新しいイベントをやろうという気運が盛り上がりつつあったのです。

私たちは、震災後五年でひと区切り、六年目は復興段階で「もう忘れてしまおう」と考えがちですが、今年の一月、震災六周年として行われたさまざまなイベントを見ると、かつて「この震災を忘れてはいけない」という意識が深まっているような気がしました。

そこには、現在の日本全体にあるパブルの崩壊や心の問題、地球全体の共生といった流れの中で、震災が私たちに語りかけているメッセージがあるのではないかと思います。つまり、人間・国家・社会全体が「傲慢になってはいけない」「もつと謙虚に生きていかないとけない」と教えられているのだと思うのです。

また、ボランティア精神というものも、これまでとは違った意味で捉えなおさなければいけません。震災のあった年は日本の「ボランティア元年」といわれ、それに対する急速な意識の高まりを見せましたが、ボランティアというのは、日常生活のなかで自分の利益や安全を優先するのではなく、本来、他者のために生きるという姿勢が必要です。そうした深いメッセージも、ボランティア元年から六年たって、ようやく見えはじめているものといえるのではないのでしょうか。

率性を考えて、この一五〇の教会が中心になって進めました。もちろん、決して神戸に限定したつもりはありませんが、キリスト教に対して好意的に開かれた神戸という土地の特徴を含めて、それに相応しい地方色を出すことができたと思います。

「今回の展示の全体的なコンセプトはどのようなものでしょうか？」

二一世紀はデジタル時代、IT革命の時代ということで、それを示すようなものを探ってみることを展示全体の骨子にしています。IT革命のもたらすものは利便性・効率性で

あり、非常に便利だけれども、それに内容が伴わなければ全く意味がありません。ITは、あくまでも聖書の内容を伝える際の手段であり、最終的にはやはり「人」が決め手です。聖書の内容に耳を傾け、生きる私たちが証言していくことが大事なのです。

そこでもうひとつのテーマとして、「神戸とキリスト教」というものを考えました。日本のキリスト教会における神戸の教会の位置付けとして、まず第一に最も歴史が古いことが挙げられますが、これは最初にできたユニオン教会をはじめ、神戸教会など、古い教会が誕生した土地であるという歴史性を伝えるものです。このほかにも、神戸が生んだ小磯良平や田中忠雄画伯をはじめ、教育や福祉関係として、ミッション系の学校が多いこと、賀川豊彦の労働運動から始まる生協運動などといった特徴があり、神戸ならではの独特なキリスト教の雰囲気を作り出しています。これらの特徴を反映させた、いわば「神戸とキリスト教」の総まとめというようなものを企画しました。

また、ブラスアルファとして「死海写本」の展示があります。この展示に関しては、私がエルサレムで責任者の方といろいろとお話した結果、好意的な援助も受け、イスラエルから再びお借りすることができました。

「今のお話にもありましたように、神戸にはキリスト教系の学校が多いという特徴があ



こうしたことを踏まえて、二一世紀の初めにあたり、大袈裟な言葉でいえば「人類全体に対するメッセージ」を、震災復興の後遺症のなかで生き続ける神戸市民を通して発信しなければならぬのではないかと考えるようになりました。

「昨年の十一月、キリスト降誕二〇〇〇年「東京大聖書展」が開催され、神戸はその直後の開催となりますが、「東京大聖書展」と何に関連性はあるのでしょうか？」

東京の後に神戸で行うことになり、私は大変よかったのではないかと考えています。なぜならば、「東京大聖書展」の成功を見て、そこで積み残したものを今回の神戸聖書展に組み入れることができたからです。

東京の教会数一二〇〇に対して神戸は一五〇ほどですが、今回の聖書展は、能率性・効

りますが、そうした学校との連携はどのように進められたのでしょうか？」

今回は、関西学院院長の山内一郎先生を中心に、周辺の十五のキリスト教関係の学校が協力してくださいました。私はほとんどの学校の責任者や学長とお会いしましたが、皆さん、非常に好意的でした。

おそらく従来の聖書展にはなく、これから難しいことだと思えますが、今回の聖書展の準備にあたっては、これらの学校関係の連絡会議を設けることができ、これを通じて、さまざまな教育施設を網羅したひとつのパネルを作成し、特別なコーナーを設けて展示することもできました。

講演会やコンサート開催、ビデオやブックレットの制作といった、これまでの聖書展にはなかった多種多様な企画を実現されましたが、これらはどのような狙いで進められたのでしょうか？」

いちばんは聖書展を盛り上げるためですが、私としては、単に「聖書展が成功した」というのではなく、一人ひとりの心に残るものを大切にしていく必要があると思っています。今回の実行委員会は聖書展の終了と共に解散しますが、その後に残っていくものが大切なのです。まず、カトリック系とプロテスタント系のクリスチャンたちがお互いに知り合い、



日本聖書協会のホームページが新しくなりました

1997年5月の開設以来、今年3月でアクセス総数85,000！
昨年12月に全面リニューアル。
今後、連載でJBSホームページのホットな見どころをご紹介します。

<http://www.bible.or.jp>

トップページの巻

ホームページの顔ともいえるトップページ。まず目につくのが聖書を手にした少女です。もちろんモデルさんですが、天使をイメージしています。そして、どのページを見ても目に入るのが、白い羽のイラストです。これは聖書の写本に使う羽ペンをイメージしていますが、青いバックと調和してとてもさわやかな雰囲気を作り出しています。

今日の聖句は、冊子「愛読こよみ」を基準に毎日替わるみ言葉の日替わりメ

ニューです。

皆さまの日々の聖書通読、瞑想などにお役立てください。

TOPICSは日本聖書協会に関連するホットな情報を載せていきます。イベント情報なども載せますので、マメにご覧ください。
それから、皆様の関心を集めているのが、**メリー・ジョーンズ物語**です。世界の聖書協会がどのような形で始まったのか？ イギリスの片田舎に住む少女の聖書に対する熱い思いから始まったなんて驚きです。

インターネットTVは、「ハーベストインターネットTVステーション」の提供でお送りする日本聖書協会の簡単な活動紹介です。

総主事室は、海外の聖書協会とコンタクトのある当協会の総主事が、海外の聖書普及の現状などをリアルタイムでお届けします。

アンケートは皆様のご意見を聞きながら、よりよいホームページを目指していきます。皆様のご協力、ご参加をお待ちしております。

BS NEWS

私は聖書協会の働きで世界の国々を訪れる機会が与えられていますが、その中で特に発展途上国におけるキリスト教宣教活動が、今急速に目覚ましい成長を遂げており、その様子を短くご紹介したいと思います。

南アメリカのブラジル・サンパウロにはブラジル聖書協会事務所がありますが、その製本・印刷工場では現在ポルトガル語聖書が年間800万冊製作され、ブラジル国内で頒布されており、頒布数は毎年増加の一途をたどっております。この頒布数は日本国内が年間100万冊、中国国内で年間300万冊の数字と比べますと膨大な冊数であるこ

Eメール

21世紀-聖書協会の課題

渡部 信
わたべ まこと
日本聖書協会総主事

とがわかりになるでしょう。

その他意外と知られていないのが、アジアのインドネシア、シンガポール、香港のキリスト教人口で、それぞれ総人口の約10%近くあり、日本の1%と比べると10倍です。またアフリカ諸国のキリスト教人口は国によって異なりますが、それでも大体20%から80%の割合を占め、日曜日には町の中をそぞろ歩いて教

会の礼拝に出席する人々の姿が見受けられます。

21世紀を迎え、今後世界のキリスト教人口の地図模様が新しく塗り替えられようとしている中で、せめて日本のキリスト教人口も2倍の2%まで成長してほしいと願う気持ちは、私のみならず皆様の祈りでもないでしょうか？ 日本聖書協会はそのため何ができるのか？ 新しい未来に向かって、皆様と共に祈りつつ歩んでいきたいと思っておりますので、どうぞ今後ともご支援とお祈りのほどをよろしくお願い申し上げます。

「2001年神戸聖書展」開催記念グッズ

ビデオ&ブックレットのご紹介

〈ビデオ〉

「福音 in 神戸-2001聖書物語-」

神戸にキリスト教が伝えられて132年。芝居の公演のため、神戸を訪れた女優(新井麻美)が、ふとしたきっかけから、この100年の間に、聖書が神戸に残したキリスト教文化に出会っていく。神戸とキリスト教文化の関わり、その歴史と現在を、映像と音楽とインタビューで綴る。ドキュメンタリー・ドラマ。

●VHS/30分上下2巻組/定価：¥5,250(消費税込、送料別途¥580)

〈ブックレット〉

「神戸と聖書-イエズス会から阪神淡路大震災まで-」

河上丈太郎の政治思想、真川豊彦と生協、小嶋長平、日本初のシュバイツァー・岩村昇、遠藤周作や八木重吉、日本で最初の賛美歌など…。キリスト教のあざな(美術、教育、音楽、建築、文学、福祉)がしみこんだ街・神戸の歴史について、約60人の著者が綴った1冊。

●B5版/AERAムックサイズ/カラー口絵8ページ、全256ページ/定価¥2,100(消費税込)

聖書展は、これまで新共同訳聖書の普及を目的とした「バイブル・キャンペーン」の一環として開催してきたわけですが、今後の

協力し合えたという一つの証ですね。そうしたいことを大事にしたいと考えています。それから、カトリック系とプロテスタント系の学校が協力して、一つのことを成し遂げたという事実。学校間で協力し合い何かを行うことは、これまではなかなか難しいことでしたが、今回のことをきっかけに、各学校の持つ各機関が今後連携して聖書展をやるという一つの道筋ができたのではないかと考えます。これも今後活かしていきたいものです。また、新共同訳聖書を学生に与えながらも、実際に使うということではどの学校の先生方も非常に苦労しています。こうした点での協力もできるのではないのでしょうか。

聖書展の発展の可能性については、どう考えてしょうか？

いくつかの教会が集まって、ミニ聖書展を開くといったことが実現するのいいと思います。とはいえ、一年半から二年にわたって実行委員会を設けて行うのは大変な労力が必要ですから、例えば「これくらいはの努力でできるよ」というようなバック形式のようなものができるといいかもしれませんね(笑)。

聖書展というのは、直接伝道ではなく、いわゆる周辺的なところの温度を高くしていくためのもので、シンパの人たちに働きかけていく意味でも、非常に有効ではないかと思えます。この観点からも、英訳聖書を紹介するAバック、「死海写本」のような学術性の高いものを紹介するCバックといったようないくつかのモデルがあれば、日本全国どこでも地域によって特色を活かしたさまざまな形の聖書展を行っていいのではないかと思います。

最終的には聖書展を通じ、より多くの方に聖書に触れていただくということですね。

ところで最近、先生はO・ハレスビーの「みことばの糧-日々新たに」という訳書を出されたんですが、どのような思いで翻訳されたのか、お話の最後に、お聞かせください。

以前訳したハレスビーの「祈りの世界」が

非常に好評で、早速「みことばの糧-日々新たに」も訳してほしいという話になったのですが、私は、みなさんに毎日聖書を読んでもらう、日々気持ち新たに祈るようになるという願いを込めて訳しました。

この本は、独立後間もない貧しい時代のノルウェーで、神の力を信じながら書かれたもので、本当の意味での霊性を高めていくことと

これは私の個人的な解釈なのですが、やはりキリスト教というものは、聖書・教会・霊性の三角形で支えられていると思います。ハレスビーの場合は、この聖書・教会・霊性のバランスが非常によくとれているので、こうした点も考慮して、お読みいただければ幸いです。

本日は、いろいろと貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



「みことばの糧-日々新たに」
(日本基督教団出版局発行)

今日に 語りかける エレミヤ

小山晃佑

こやま こうすけ
ニューヨーク
ユニオン神学校教授



主の神殿、主の神殿という、むなしい言葉に依り頼みではならない。この所で、お前たちの道と行いを正し、お互いの間に正義を行い、寄留の外国人、孤児、寡婦を虐げず、無実の人の血を流さず、異教の神々に従うことなく、自ら災いを招いてはならない。そうすれば、わたしはお前たちを先祖に与えたこの地、この所に、とこしえからとこしえまで住まわせる。」(エレミヤ書七・三十七)

一九四五年三月十日にアメリカ空軍爆撃機B29による東京大空襲があった。東京はたちまち大火に包まれたのである。日本の軍部は「帝都の空は死守する。東京には天皇の皇居がある」と繰り返して宣伝していたのだが、これは私が十五才のときのことである。それから何年もたつて、ある日、エレミヤ書の言葉が地震のように私を揺すぶった。「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。お前たちの道と行いを正せ。そうすれば、わたしはお前たちをこの所に住まわせる。主の神殿、

エレミヤは紀元前七世紀から六世紀にかけての人であるから私たちの時代との間には二十五世紀ほどの時間と文化の隔たりがある。私を揺すぶったのは「主の神殿、主の神殿、主の神殿」という、むなしい言葉に依り頼みではならない。」というところだ。日本の政府は戦争中「天皇の皇居、天皇の皇居、天皇の皇居」と恭しく繰り返していたからである。東京は一九四五年にアメリカ軍によって、エルサレムは前五八七年にバビロニア軍によって潰滅した。似たところがある、不思議なものだと私は驚いた。両方とも大変辛いもの、

大切なもの、聖なるもの―神殿、皇居―を引用しているのだ。ことにエルサレムの場合には「翼を広げた鳥のように万軍の主はエルサレムの上にあつて守られる。これを守り、助け、かばつて救われる。」(イザヤ書三一・五)という信仰があつた。一方、東京には「天佑を保有し」という尊い天皇がいた。エレミヤの言葉は震源地的である。「ただ神殿、神殿、神殿と唱えていても無意味だ。神殿の意味するところを実行せよ。」すなわち「お互いの間に正義を行い、寄留の外国人、孤児、寡婦を虐げず、無実の人の血を流さず、異教の神々に従うことなく」生活することだ。これがいわばエレミヤの「立正安国論」である。二十五世紀の隔たりを飛び越えるものはこのように吹き出してくる真理の熱情といえよう(出エジプト記二〇・五)。「お互いの間に正義を行え」という聖書の大宣言は全人類に対する言葉、「初めに言があつた」(ヨハネ一・一)の言葉である。「主は正義を愛される。」(詩編三七・二十八)「そうすれば、わたしはお前たちをこの所に住まわせる」ということは、正義を行った「とき」に「住むところ」があらわれることを意味する。正義が「とき」と「ところ」を結び付けるのである。「裁きを出さず、偏り見ず、賄賂を受け取つてはならない。賄賂は賢い者の目をくらませ、正しい者

の言い分をゆがめるからである。ただ正しいことのみを追求しなさい。そうすれば命を得、あなたの神、主が与えられる土地を得ることができ。」(申命記一六・一九、二〇)「正義を行い、慈しみを愛しへりくだつて神と共に歩む」(ミカ六・八)「とき」に「ところ」が広々とあらわれる。そうでないと「土地があなただちを吐き出すであろう。」(レビ記一八・二八)

「とき」と「ところ」は自動的に共存しているのではない。「裁きを出さず、偏り見ず、賄賂を取らない」と「とき」と「ところ」は喜びをもって私たちを支える。そうしたら健全(シャローム)が私たちを取り巻いてくれる。これが「初めに、神は天地を創造された。」(創世記一・一)の意味である。これが「土地はわたしのものであり、あなたたちはわたしの土地に寄留し、滞在する者にすぎない。」(レビ記二五・二三)の指し示しているところである。土地「ところ」から吐き出された

ら、「とき」からも吐き出される。そうしたら人類は宇宙論的浮浪者になつてしまふ。そういうことのないように注意しようというところが今日全人類の直面している環境汚染問題である。エレミヤは正義を行うことが環境論の原点であるという。この見方こそ人間のすべての文明を正当に批判することのできる歴史的真理であると思う。

世界は正義が「とき」と「ところ」を結び付けるのだという約束のゆえに真剣な「物語」をもっている。一九四五年に日本人は「とき」と「ところ」がばらばらになり、そこから吐き出された経験をしている。それは正義を行わなかったからだと言書は確言する。そこには揺るぎない真理の熱情がある。約束は物語を生み出す。「賄賂を取らなければこの土地に住むことがでる」という約束は大きな人間物語の主題になる。「寄留の外国人、孤児、寡婦を虐げず」も同じように人類大の物語の主題である。人間のあらゆる物語はどこかで「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。」(マタイ五・五)というイエスの言葉と会話している。「その人たちは地を受け継ぐ」という約束を(エキメニカル)という言葉は意味している。この言葉はギリシア語の「オイコス」(家)という言葉に由来しており、全世界、いや全宇宙を一つの家と見、その家を支えている者は柔和にして正

義の神であるということがエキメニズムの本質である。「天は神の栄光を物語り大空は御手の業を示す。昼は日に語り伝え夜は夜に知識を送る。話すことも、語ることもなく声は聞こえなくてもその響きは全地にその言葉は世界の果てに向かう。」(詩編一九・一二五)はエキメニズムの合唱である。世界の果てまで「寄留の外国人、孤児、寡婦」に親切であれという言葉が響く。「ぶどうの取り入れをするときは、後で摘み尽くしてはならない。それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。あなたはエジプトの国で奴隷であつたことを思い起こしなさい。」(申命記二四・二二、二二)あなた方はかつて寄留者で下積みの人たちに対して同情と理解のあるはずという神の言に基づいた同情理解論、すなわち、エキメニズムである。

日本人はあの戦争中、戦後食糧欠乏で苦しんだ。だから今食べ物なして苦しんでいる人たちのことはよくわかるはず。ただ「神殿、神殿、神殿」と唱えていることは、極めて宗教的かもしれないが、それはむなしい。真の社会的にはじき出されている人々に心を配ることであるとエレミヤは言う。そうしたなら私たちは「異教の神々」に従っていないことになり、住むところを与えられるのである。



「わたしの目には、あなたは高価で尊い」 インターナショナルVIPクラブの始まりと発展 市村和夫

一九九三年の春、ユナイテッド航空の日本地域・旅客営業支配人としてロバート・ホームズ氏がアメリカから東京へ赴任して来られました。ある方の紹介で、帝国ホテルでお会いして、昼食を共にしました。食事が終わってから、彼の事務所までお送りして、お別れしようとしたときに、聖霊がわたしに、もう少しホームズ氏とお話するようにとの導きを受け「ホームズさん、もう少しお話ししたいのですが」と尋ねると「時間はありますよ」ということで、会社の会議室でお話することになりました。初めてお目にかかった人に、大変ぶしつけな質問でしたが「ホームズさん、わたしと一緒に、ビジネス・マンに福音を伝える働きをしませんか。できれば、あなたの家をお借りして家庭集会をしたいのです」と言うと、ホームズさんは「ぜひ、わたしの家を使ってください。わたしは、そのために日本に来たのですから」と言われました。「奥様にご相談されなくてもいいのですか」と問いますと「それは、わたしよりも家内のほうが願っているところです」と答えられました。

神様の不思議な導きのうちにホームズさんご夫妻とお会いして、ビジネスマン伝道が始まりました。会の名称について考え、折っていたところ、「インターナショナルVIPクラブ」という名前が与えられました。これは、旧約聖書のイザヤ書四三章四節の「わたしの目には、あなたは高価で尊い」に由来しています。第一回の会合が一九九三年九月にホームズ宅で行われ、賛美の後、聖書のお話を聞いて、奥様手作りのおいしいケーキを食べながら、美しい夜景を眺めて、仕事や人生について話し合いました。その年のクリスマスには、弁護士の佐々木満男氏を講師に十五名の方々がご出席くださいました。そして、六年後（一昨年）のVIPクリスマスには、東京国際フォーラムに一三〇〇名が集まりました。また、昨年のクリスマスには、バシフィコ横浜のコンサートホールに五〇〇〇名を集めてチャリティコンサートを開催しました。短期間の間に、このように神様が大きく祝福してくださったことに驚きと感謝しています。



帝国ホテルにおける会合（2001年1月19日）

この働きが始まってから数年して、ホームズさんの奥様がご病気になられ、治療のためアメリカに帰国することになり、ご夫妻の家を使用することができなくなりました。しかし、神様は新しく赤坂アークヒルズ四七階の会議室を備えてくださいました。また、新しい日本人の協力者も与えられました。その中には、金森一雄さん（富士銀行本店・グローバル審査第二部・部長）、三谷康人さん（鐘紡・顧問）、佐々木満男さん（弁護士）などがおられました。このときから、VIPクラブは飛躍的に発展して、現在は東京、横浜、新横浜、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、高松、ニューヨーク、マニラ、ジャカルタ、バンコク、ラゴスなど、日本と世界の主要都市四〇か所以上で、定期的な会合がもたれています。感謝なことに今は、ホームズさんの奥様のご健康も回復され、昨秋から再び日本に戻られ、この働きに加わってくださっています。

VIPクラブの祝福の源は、設立から今日に至るまで、毎週のオアシス祈り会、毎月二回のオアシス徹夜祈り会をはじめ、多くの方々が熱心に祈ってくださっていることです。この祈りなくして、VIPクラブの祝福と発展はあり得ません。祈るときに、人材が与えられ、会場が与えられ、必要のすべてが備えられ、救われる魂が与えられてきました。祈りの中で、聖霊が働かれ、命と力に満ちあふれ、神さまの不思議なみわざがなされてきました。聖霊の働きなくして、帝国ホテルや、パレスホテル、京王プラザホテル、横浜ベイシエラトンなど、日本の超一流ホテルを会場として定期集会をもつことはできないでしょう。

一人一人が神様の前に掛けがいのない大切な人・VIPであるという理念で、運営させていただいております。政治家からホームレスに至るまでさまざまな方々がおられ、国会議員、官僚、医師、弁護士、実業家、経営者、技術者、研究者、教育者、セールスマン、芸術家、マスコミ、ジャーナリスト、スポーツ・芸能人などが参加されています。

このようにして、まだ始まったばかりの働きですが、二一世紀に向けて、全世界に福音を伝える働きに加えさせていただき感謝しています。



市村和夫（いちむら かずお）
インターナショナルVIPクラブ代表役員
ホームページ：http://vip-club.tv

荻野吟子と聖書

鈴木範久 すずきののりひさ 立教大学教授

日本の近代化のため、さまざまな分野において、キリスト教が刺激を与え、先駆けとなった事実はよく知られている。それは女性による医療活動の面でもいえる。日本最初の女性医師と最初の看護婦は、荻野吟子と大関和子の二人によって切り開かれた。吟子は一八五一年（嘉永四年）、武蔵国俵瀬村（現在の埼玉県妻沼町俵瀬）に生まれた。荻野家は名主であり、吟子は子どものうちから学問を教えられ才能が目立っていた。しかし年頃には結婚、夫から性病を移されたうえ、精神的にも病んで離縁となった。

と嘆く声を聞いた。他方、恥辱のため診察を受けず、病気を悪化させている患者も少なくなかった。これを知った彼女は、みずから医師になる決意を固めた。約二年間の治療を経て回復した吟子は、女子師範学校（現在のお茶の水女子大学）で学んだ後、私塾好寿院で医学の勉強に打ち込む。ここでの三年間の学生生活は、男子学生の間に混じり、言うに言われぬ苦労があった。

吟子のキリスト教との関係につき、彼女に洗礼を授けることになる海老名弾正は、一八八四年十月、京橋の新富座で開催された基督教大説教会を挙げている。二日間にわたって開催され、海老名弾正、小崎弘道、フルベツキらの演説があった。彼女が医師の前期試験に受験した直後である。これまで女性差別の問題に苦しんでいた吟子であるだけに、平等と愛を説くキリスト教の人間観には多大の共鳴を覚えたに違いない。吟子は、一八八七（明治二〇）年六月、湯島にあった本郷教会で海老名から受洗する。海老名は吟子を使用していた聖書につき、「聖書の文字が細かくて視力に悪影響を与えることを恐れ、自分で手写した大部の聖書であった」と述べている。

そのころ、広く日本社会の弊風の矯正を目指して、日本キリスト教婦人矯風会が、一八八六（明治十九）年十二月六日に結成された。初代会頭には矢島樺子が就任、吟子は同会の風俗部で活躍、同部長、副会頭に就く。明治女学校の校医にもなる。

あつたから周辺はこぞで反対した。しかし二人は反対を押し切り、一八九〇（明治二十三年）十一月二十五日、結婚式を挙げた。一八九一年十月二十八日、岐阜県と愛知県地方を中心に大規模な地震が発生した。濃尾大地震である。死者は八千人近くに及んだ。地震による孤児や生活困窮による少女の誘拐や売買が横行した。当時、立教女学院で教育に従事していた石井亮一は、現地に向かう一方、身寄りを亡くした少女二十四人を引き取った。その少女たちを、最初に預けたところが、当時、西黒門町にあった志方と吟子の家でもある医院であった。吟子はキリスト教婦人矯風会の風俗部長として廃娼運動を行っていた立場から、喜んで協力したに違いない。石井はその後、日本最初の知的障害児の教育施設・滝乃川学園を開設する。

と名付けた。しばらくして吟子も医院を畳み夫の後を追って入植した。現地では吟子自身も、聴診器を鍍にかえて開業の仕事に従ったといわれるが、開拓地の苦難はこでも例外でなかった。計画は頓挫、早くも一八九六年に二人は現地を去り、一八九八年には瀬棚に移り、荻野医院を開業した。同所では淑徳婦人会を作り、会長としてキリスト教婦人矯風会に似た活動をしている。しかし、同地で伝道していた夫の善は、一九〇五（明治三十八）年死去。吟子は、しばらく医業を続けていたが、一九〇八年東京に戻る。帰京後、下谷新小梅町に医院を開いたものの、もはや往年ほどの注目を浴びることなく、一九一三（大正二）年六月二十三日、ひっそりと世を去った。

吟子が生涯を通じて愛用した聖句は「人の友のためにおのれの命をさつるはこれより大なる愛はなし」（ヨハネ一五・一二）であった。この言葉は、埼玉県俵瀬と北海道瀬棚の双方に建てられた彼女の顕彰碑に共に刻まれている。今日、瀬棚町に設けられた郷土館には、彼女の愛用した英文の『聖書物語』（The Bible and its Story）が置かれている。



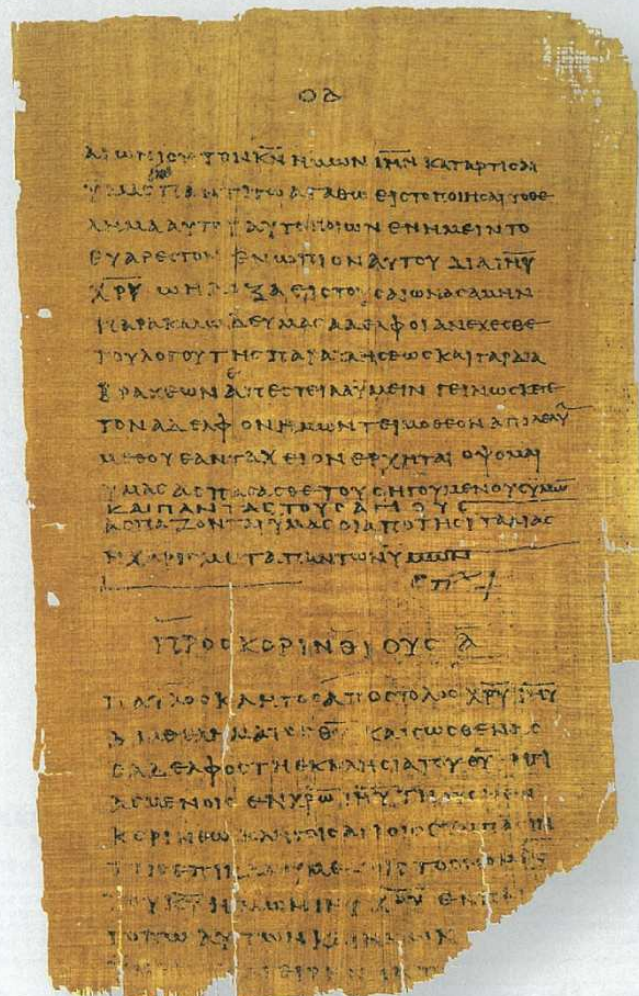
日本最初の公許女医 荻野吟子／明治18年35歳
（写真提供：瀬棚町郷土館）

同じころ志方は、北海道の利別原野を開拓し、そこにキリスト教の理想郷建設の夢を抱き、一八九一（明治二十四）年、同志と北海道に渡った。開拓地をインマヌエル（神とともにいます）

チェスター・ ビーティー・ パピルス

(ファクシミリ版)
2-4世紀 ダブリン
チェスター・ビーティー ライブラリー所蔵

1世紀以降3、4世紀ごろまで、キリスト教の領域において、ギリシア聖書はパピルスの綴じ本（コードックス）に書かれた。
「チェスター・ビーティー・パピルス」は最も古いギリシア語の写本の一つで、2〜4世紀に書かれ、70人訳ギリシア語旧約、福音書、パウロ書簡、黙示録のそれぞれ一部を含み、聖書の本文決定に大きな意味を持っている。
1930年にカイロの古物商から古文書収集家チェスター・ビーティー（Sir Alfred Chester Beatty (1875-1968)）が入手したことから、この名前が付けられた。
なお、エゼキエル書の大部分はプリンストン大学、パウロ書簡30枚その他はミシガン大学に所蔵されている。



読者の声より

聖句選集アンケート

皆様は当協会発行の聖句選集をご存じでしょうか？
B5サイズの用紙に聖句とイラスト（または写真）が入っていて、年に約4回発行しております。
聖句選集がどのように用いられているか、どのようなものが好まれるかなどをアンケート結果に基づいてまとめてみました。

用途について

- 週報や特別伝道集会用プログラムとして使われることが多く、そのために「週報」というロゴや教会名と住所を印刷する余白を入れてほしいという声もあります。
- 結婚式や告別式、またはクリスマスなどの特別行事にも多く用いられています。
- 裏が白紙なので、便箋として使っている方もいらっしゃいます。

絵柄・サイズについて

- イラストだけでなく写真も増やしてほしいというご意見がありました。現在、写真の選集は1種類のみ発行しております。
- 明るい色調や優しい絵柄が好まれるようです。
- 以前はA5判（タテ14.8×ヨコ21.0cm）も発行していましたが、現状のB5判（18.2×25.7cm）が好評です。

皆様のご意見を参考にさせていただき、よりよい聖句選集を発行してまいりますので、どうぞご期待ください。
日本聖書協会ではテーマ別に11種類の聖句選集をご用意いたしております。（2001年3月現在）

ご注文は日本聖書協会頒布部で承っております。

TEL: 03-3567-1987
FAX: 03-3567-4436

Readers' Voice

ただいま、日本聖書協会では海外への国際聖書製作（Global Scripture Production）計画を進めています。聖書を頒布したくても、予算不足のために困難なアフリカ、東南アジア、中南米などにある聖書協会へ聖書を贈る働きです。世界から日本への要望はますます増えています。一人でも多くの

会員の入会 の お願い

方が会員になってくださって、聖書普及活動をお支えいただければ幸いです。会員の方へはSOWERの最新号、聖書協会に関連するイベント等のホットな情報を無料でお届けします。

後援会1口/10,000円 維持会1口/5,000円
振替00160-2-18410

編集後記

21世紀の扉を開けました。子どもたちが、私にとって「21世紀」と言うのは、完全にSF映画の世界だったような気がします。でも現実にはその時代を生きているのです。何とも信じられないような複雑な心持です。これから時代はどのように変わっていくのでしょうか？
新たな時代とはいえ、極めて不透明な未来しかありません。そんな中、聖書はどういう役割を担っていくのか？ 神の言葉、私たちが支えてくれる真理は、永遠・無期で、時間と空間を超えて働いています。その具体的な表現である21世紀の行方は、私たちの意識の持ち方、向き方にかかっています。
聖書聖句にあるように、私たちは分け難く立っています。しかし、神は迷ひの道の選択を望んでおられるわけがありません。これからの人類はもつと謙虚に、そして忠実に心を言葉に向けて、その内なる力を神によって開示していかなくてはなりません。
私ども聖書普及に携わる者として、この心の姿勢を忘れてはいけないことは言までもないことです。聖書の一面のご支援をお願いいたします。（M）

◆本誌への「意見・ご感想」をお聞かせください。
お返書（Eメール）にてお送りください。
Eメール：アドレス / info@jbs.or.jp
ソア 第18号 MAY 2001
発行 財団法人 日本聖書協会
〒104-0061
東京都中央区銀座4-1-51
電話 03-3567-1198 8
FAX 03-3567-4451
ホームページ / <http://www.jbs.or.jp>
振替 00160-2-18410
表紙イラストレーション 日本聖書協会
デザイン 株式会社サバンナ・デザイン
印刷 文芸堂印刷株式会社